

国際センター通信(No.126)

木村国際センター長からの抱負

昨年 8 月より国際センターのセンター長を拝命しております木村亮です。3 月末まで京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻の教授をしていましたが、早期退職し、5 月から新たな世界で活動します。大学教員から民間会社の役員として土木構造物の維持管理を担う工事会社（ボンドエンジニアリング）で、顧問や技術アドバイザーではなくフルタイムで働きます。新しい仕事の仕方を若い世代に伝えます。

45 年間ずっと京都大学で研究・教育・社会貢献を行ってきました。1993 年からアフリカのケニアでの大学作りの JICA プロジェクトに関わり、100 回近くアフリカ 23 ケ国を訪問し、人作りや研究成果を応用した社会実装を展開してきました。貧困削減をテーマにした住民参加による土のうを用いた未舗装道路整備を活動の骨格とした国際 NPO 活動（道普請人）も 15 年に及びます。

土木学会は国際センター内 6 グループ(情報、国際交流、教育、留学生、プロジェクト、外国人技術者)を主体として、以下の 5 つの目標に対して取り組んでいます。①国際社会に対して主導的な役割を果たすべき活動の推進、②先進国等の技術的動向に関する情報共有、③若手人材育成支援と国内外の活動のシームレス化の推進、④海外展開が期待できる分野における産官学の連携強化と情報発信、⑤海外との人的ネットワーク形成・強化です。

2022 年度の上田会長特別委員会（「土木グローバル化総合委員会」）は、①海外で活躍できる技術者育成、②若手のキャリアデザインに役立つ情報提供、そして③海外が求める魅力的かつ国際社会へ貢献できるプロジェクト創成という 3 テーマを持って活動してきました。今後は国際センターにて、これらの活動を引継ぎ、長い時間をかけて調査研究委員会等と協力して根付かせていくつもりです。ただし、国際センター内の 6 つのグループの既存の活動と、上記特別委員会の 3 つの活動をどのように関連づけ恒常的に推進していくかは、今後議論が必要な部分です。

私は色々な組織で「スクラップ&ビルド」を常に考えてきました。大学や学会はスクラップできずに、ビルドばかりしたがりですが、若い人の活躍の場を提供するためにも、大胆なスクラップが必要と考えます。国際センターの活動を会員の皆様に密に情報発信し、忌憚なき意見をいただき、今後の活動の参考にしたいと思います。世の中 DX（デジタルトランスファー）と言っていますが、私は後半の変革（トランスファー）に重きを置いて、国際の世界に新しい風を吹かせたいと考えています。よろしくお願ひします。



撮影：楠本 涼

木村 亮（土木学会
国際センター長）

【記：土木学会 国際センター長 木村 亮（京都大学名誉教授）】

会長からのメッセージ

土木研究者がグローバルな視点を増強させる必要性がある日本

これまでの会長からのメッセージにおいて、次のようなことを述べてきた。日本は土木技術の海外展開をODAを主体に行ってきたが、海外の主要国と比較すれば海外事業の割合は少なく、今後はODAに頼らない海外事業の展開が必要である。そのためには、グローバルに活躍する日本の土木技術者も必要である。それでは、土木分野の研究・研究者はどうであろうか。

土木研究者においても、ODAを主体に、海外に赴いて現地の大学での研究指導、国費留学生を日本の大学で受け入れての研究指導を行ってきた。研究指導の多くは英語で行われ、研究成果も英語で公表されてきたが、多くは日本国内での公表であった。日本における問題である日本人学生が博士課程に進学しないという点を、海外からの優秀な留学生が博士課程に進学することにより解決してきたのである。優れた成果が出た場合、英語の論文でも国内の一流ジャーナルに投稿するのが普通で、土木学会賞のような評価を得ることが多くの研究者の目標であった。国内の一流ジャーナルの論文の質が海外のジャーナルより高いと見なされていたという点もその背景にあったと考えられる。

この状況は21世紀に入り徐々に変化してきた。インパクトファクターで格付けされるジャーナルに掲載されることが、土木研究においても目標になるようになったのである。土木分野において世界の一流と位置付けられる海外の国際ジャーナルへ、日本からも投稿が行われるようになった。そのため、国内のジャーナルの中には、国際ジャーナルの基準を満たしインパクトファクターが付与される、世界で認知されるジャーナルとなったものもある。

21世紀に入って20年以上がたった現在の状況はどうであろうか。データとして持ち合わせているのは筆者の専門分野（コンクリート工学）のものでしかないが、一流の国際ジャーナルへの日本からの投稿数は1から2%程度であり、全科学分野の日本からの投稿が4%程度である点と比較して少ない。筆者が以前勤務していた大学での経験ではあるが、土木分野の教員の全刊行論文に占める国際ジャーナル論文数の割合は、他の工学分野と比較しても明らかに低かった。

土木分野において国際ジャーナル論文数が少ないのは、他の自然科学分野と比較して社会貢献の重要性が大きいことがその理由の一つと考えられる。つまり、土木分野の研究にはローカルな課題への対応が求められているのである。しかし、それと共に土木はグローバルな課題への対応も求められている。SDGsへの土木の貢献が大きいのは社会が認めていることである。幸いにして研究水準がいまだに高い日本の土木は、グローバルな課題に対して、特にこれからもインフラを整備していく開発途上国での課題に対して、基礎的な研究も含め長期的に貢献していくことが期待されていると考える。



撮影：伊藤留美子（写真家）

上田 多門
土木学会 第110代会長

土木学会としては、現在、土木工学における学術研究活動の国際化ビジョン検討小委員会（長井宏平委員長）を設置し、若い研究者が分野を超えて集い、日本の土木研究の世界における位置付けを確認し、グローバルにどのように貢献していけるかを議論している。議論の成果が期待される。今後も、グローバルな研究者が育つための支援を、土木学会として行っていく。



土木学会が企画する若手研究者のワークショップ

International Seminar “Investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Transdisciplinary perspectives”

2023年2月28日（火）、東北大学災害科学国際研究所はインドネシア・ジャカルタにおいて、インドネシア大学心理学部及びインドネシア防災専門家協会（IABI）と共同で国際セミナー「Investment in disaster risk reduction and climate change adaptation: Transdisciplinary perspectives」を開催した。本国際セミナーは、ハイブリッド形式（会場：Le Meridien Jakarta、オンライン：Zoom Webinar）で開催され、全体で約80名の参加があった。

東北大学災害科学国際研究所長の今村文彦先生、インドネシア大学心理学部長の Bagus Takwin 先生による開会挨拶の後、Syamsul Maarif 元国家防災庁長官からインドネシアの防災投資に係る基調講演が行われた。続いて、Hizir Sofyan 前シャクアラ大学副学長ほか4名のパネリストによる研究発表・討論が行われ、会場からも多くの質問が出るなど、盛会のうちに終えることができた。

バンダアチェを例とした議論では、住民の能力強化の必要性が強調され、大学院レベルまでの教育プログラムが必要である旨がパネリストから表明された。また、インドネシアでは防災に割り当てられる中央政府からの予算が不足しているとの指摘に対し、どのようなメカニズムが必要とされるかについて、日本国内での実例を基にした議論が行われた。加えて、インドネシアでは貧困等への対応も必要とされている現状を踏まえ、防災への公的資金の投入について如何に合理性を判断すべきかについても議論が展開された。さらに、民間による投資については、重要な課題と認識されてはいるものの、これまでのところ有効な活用事例が少ないことなどが指摘された。

今日では、人口の増加や都市化の進展に伴い、特に発展途上国において、より多くの人々が災害リスクにさらされている。また気候変動は、既存のリスクをさらに深刻化させ、新たなリスクを惹起している。このような状況の下でレジリエンスを構築するためには、防災と気候変動適応により多くの投資を行うことが必要不可欠である。今後も、これらの投資を拡大する上での課題を明らかにし、レジリエントで持続可能な社会の実現に向けた政策や革新的なアプローチ等を提言していきたい。

本国際セミナーは、公益信託土木学会学術交流基金による助成を受け、実施されたものである。ここに記して謝意を表する次第である。



Syamsul Maarif 元国家防災庁長官による基調講演



パネルディスカッション



パネリストたち

【記：東北大学 災害科学国際研究所 佐々木 大輔】

【今後の予定】



◆ふくろう多門のビデオレター No.12 公開

https://www.youtube.com/playlist?list=PLRALmeewpTqoKp7gGhXqoh_b_pNvYO9oH

◆IABSE（国際構造工学会）2023 イスタンブール大会

「Long Span Bridges」参加+トルコ長大橋視察調査（主催：長大橋 WG）

https://committees.jsce.or.jp/2022_Presidential_Project02/node/17

* IABSE Symposium Istanbul 2023: <https://iabse.org/Istanbul2023>



◆令和4年度 土木学会 会長室

<https://www.jsce.or.jp/president/index.shtml>

・「多門に多聞&多問」*上田会長へのご意見、ご質問をお待ちしております。

<https://committees.jsce.or.jp/chair/node/59>

◆「春日 昭夫氏に訊く」 土木工学における学術研究活動の国際化ビジョン検討小委員会 インタビュー

<https://youtu.be/i5ryLflvGuE>

◆「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」

<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>

◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)

http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2023

◆土木学会コンクリート標準示方書「基本原則編」、「設計編」、「維持管理編」の3編が改訂！

<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter/node/388>

◆極端降水・極端洪水に関する国際シンポジウム（水工学委員会）

<https://committees.jsce.or.jp/hydraulic/node/225>

◆D&I カフェトーク 一身近にあります。多様な働き方や生き方。そんなお話きいてみます。—

<https://committees.jsce.or.jp/diversity/node/82>

◆第190回論説(2023年3月版) オピニオン

(1) 若手へのラブレター

<https://note.com/jsce/n/n7f6a0017c677>

(2) 「良いものを作ろう」という気持ち ～品質の確保と向上につなげて～

<https://note.com/jsce/n/n7dbd66a8a376>

- ◆土木学会誌 2023年4月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版)
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆JICA グローバル・アジェンダ 開発途上国の課題に取り組む 20 の事業構想
https://www.jica.go.jp/TICAD/ja/overview/publications/global_agenda_20.html
- ◆Breakwaters 2023
<https://www.ice.org.uk/events/conferences/breakwaters-2023/>
- ◆The 4th International Conference on Transportation Infrastructure and Sustainable Development (TISDIC 2023)
<https://tisdic2023.dut.udn.vn/>
- ◆PIARC 道路橋の点検、マネジメント、リハビリテーションに関する国際ワークショップ
https://www.road.or.jp/international/pdf/2023_Kobe_Workshop_Program_JPN_0313_final_revised_revised.pdf
- ◆CECAR10 : <http://www.cecar10.org/>
- ◆ASCE 2023 CONVENTION, CHICAGO (October, 18-21)
<https://convention.asce.org/>
- ◆KSCE 2023 CONVENTION (October, 18-20)
<https://eng.ksce.or.kr/activities/act01.asp?idx=60&page=1&sfield=>xt=&byy=&gbns=1&ctop=MN0335&htop=MN0323&ptop=MN0323&smm=&btype=&bgn=R>
- ◆「タイ ビジネスミッション 2023」ご案内
http://www.boi.go.th/upload/Japan2023/BOI_SUBCON_Mission_May2023.pdf
- ◆タイにおけるスマートシティに関する国際ワークショップ：スマートシティを地域開発計画に如何に取り込んでいくべきか（2023年4月26日～27日）
<https://forms.gle/KZwvgFFMBxBvPBbw7>

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版: (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版: (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。
(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】 JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp 皆様のご意見やコメントをお待ちしております。